

## 病後児保育室診療情報提供書（診察医連絡票）

新潟大学あゆみ保育園 宛

医療機関 所在地  
名称  
電話

担当医師 氏名

④

&lt;主治医の先生へお願い&gt;

この用紙は、乳幼児が新潟大学病後児保育室を利用するために必要なものです。  
診療の上、病後児保育室を利用することに支障がないと認められる場合には、下記にご記入  
いただき、保護者へお渡しくださるようお願いいたします。（利用判断基準は裏面のとおりです。）

病後児保育室の利用にあたり、次のとおり診療情報を提供します。

乳幼児氏名		男・女	生年月日	平成・令和 年 月 日 ( 歳)
保護者氏名			電話番号	
病名	<input type="checkbox"/> インフルエンザ <input type="checkbox"/> 百日咳 <input type="checkbox"/> 麻疹 <input type="checkbox"/> 流行性耳下腺炎 <input type="checkbox"/> 風疹 <input type="checkbox"/> 水痘 <input type="checkbox"/> 咽頭結膜熱 <input type="checkbox"/> 結核 <input type="checkbox"/> 感染症胃腸炎 <input type="checkbox"/> マイコプラズマ感染症 <input type="checkbox"/> RSウイルス感染症 <input type="checkbox"/> 溶連菌感染症 <input type="checkbox"/> 手足口病 <input type="checkbox"/> ヘルパンギーナ <input type="checkbox"/> その他 ( ) 発症日 ( 月 日) <input type="checkbox"/> 利用判断基準を満たしている。			
現在の主な症状	体温 ( °C)	その他 ( )		
病後児保育の必要な期間	令和 年 月 日 ( ) から令和 年 月 日 ( ) まで ※利用期間は、最長でも7日間とします。			
保育の留意点	<input type="checkbox"/> 室内保育 (他児と室内で普通に遊んでよい) <input type="checkbox"/> 室内安静 (他児との静かな遊びは可) <input type="checkbox"/> その他 ( )			
処方内容	与薬方法 : <input type="checkbox"/> 食前 <input type="checkbox"/> 食後 <input type="checkbox"/> 指定時間 ( ) 次回診察予定日 月 日			
病後児保育室への指示他連絡事項				

## 【利用判断基準】

受診当日に 満たしておく 条件	① 体温	38.0℃以上の高熱が持続しておらず、消耗していない
	② 食欲	水分摂取・哺乳が可能で、脱水症状がなく、食事が可能
	③ 消化器症状	嘔吐はほぼ消失し、頻回・多量の下痢ではない
	④ 呼吸器症状	呼吸困難症状がない
	⑤ その他	重篤になる危険性が低い

### ・上記条件を満たしていて、預かり可能な主な感染症と目安となる許可基準

※ 「学校、幼稚園、保育所で予防すべき感染症の解説：抜粋表（日本小児科学会）」及び「学校感染症とその出席停止期間の基準（学校保健安全施行規則）」に準じています。

主 な 感 染 症	目 安 と な る 許 可 基 準
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過していれば利用可能
百日咳	特有の咳が消失後は利用可能
麻疹	解熱後3日を経過していれば利用可能
流行性耳下腺炎	耳下腺等の腫脹が発現した後5日を経過又は腫脹の消失後は利用可能
風疹	発疹消失後は利用可能
水痘	すべての発疹が痂皮化すれば利用可能
咽頭結膜熱	主要症状が消失して2日経過後は利用可能
結核	感染の恐れがないと認められれば利用可能
感染症胃腸炎（ロタウイルス、ノロウイルス等）	下痢、嘔吐が消失した後は利用可能
マイコプラズマ感染症	症状が安定した後は利用可能
RSウイルス感染症	症状が安定した後は利用可能
溶連菌感染症	抗生剤の内服開始後24時間を経過していれば利用可能
手足口病	全身状態が安定していれば利用可能
ヘルパンギーナ	全身状態が安定していれば利用可能

※ 解熱後とは原則として（解熱剤の使用なく）37℃台に解熱したことであります。

### ・預かりが不可能な場合の条件

① 伝染病疾患（水痘、流行性耳下腺炎、麻疹、風疹、インフルエンザ、ロタなど）の急性期で、他児に感染する恐れが強い
② 感染しやすく、一旦感染すれば重症になる危険性の高い児。 血液腫瘍疾患や重症心疾患、重症腎疾患、膠原病などや、免疫抑制剤を使用している児など
③ 38.0度以上の発熱が続いている
④ 嘔吐、下痢がひどく脱水症状（皮膚や唇の乾燥、涙が出ない、ぐったりして元気がないなど）がある
⑤ 咳がひどく、呼吸困難である（喘息発作を含む）
⑥ その他、医師により受入れが不可能と判断された児